

# 関西経済レポート(11月号)

- ➡ 9月の関西の鉱工業生産は、前月比-3.0%と3カ月ぶりの下落
- ➡ 円安の持続を背景に、10月の関西の輸出額は8カ月連続で増加。  
一方、輸入も10カ月連続で増加し過去最高額を更新
- ➡ 10月の消費者マインドは高水準からの調整局面が続いている
- ➡ 10月の大型小売店販売額は前年比プラス、新設住宅着工は好調を維持
- ➡ 10月の失業率は前月より悪化したが、求人倍率は大幅改善
- ➡ 9月の建設工事は堅調な増加も、10月の公共工事受注額は伸びが大幅に減速
- ➡ 中国10月製造業PMIは前月より幾分回復したが、先行きは不透明である。

※「近畿」・「関西」は、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山の2府4県。  
鉱工業生産、大型小売店販売額のみ、福井を含む2府5県。

## ～目次～

生産	1
輸出入	2
消費者センチメント	3
個人消費・住宅	4
雇用	5
公共投資	6
中国経済動向①	7
中国経済動向②	8

# ～生産～

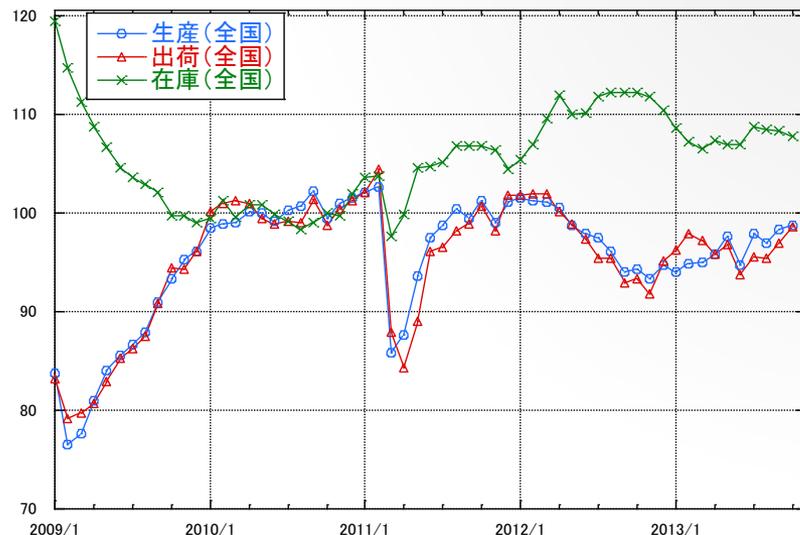
鉱工業指数の推移(近畿・2013年9月まで), 2005年=100



(データ出所: 「近畿経済の動向」、近畿経済産業局)

- 関西における9月の鉱工業生産指数(確報値: 季節調整済)を見ると、生産は89.2で前月比-2.9%、出荷は89.7で同-1.8%といずれも3カ月ぶりの下落。在庫は105.0で同+0.4%と3カ月連続の上昇となっている。
- 業種別に生産指数をみると、一般機械(-10.1%)、輸送機械(除. 鋼船・鉄道車両) (-6.9%)、窯業・土石製品(-5.5%)等が低下した。一方、電気機械(+3.8%)、電子部品・デバイス(+4.3%)、化学(+1.1%)等が上昇した。
- 一般機械等の減産に伴い、生産は減少している。

鉱工業指数の推移(全国・2013年10月まで), 2010年=100

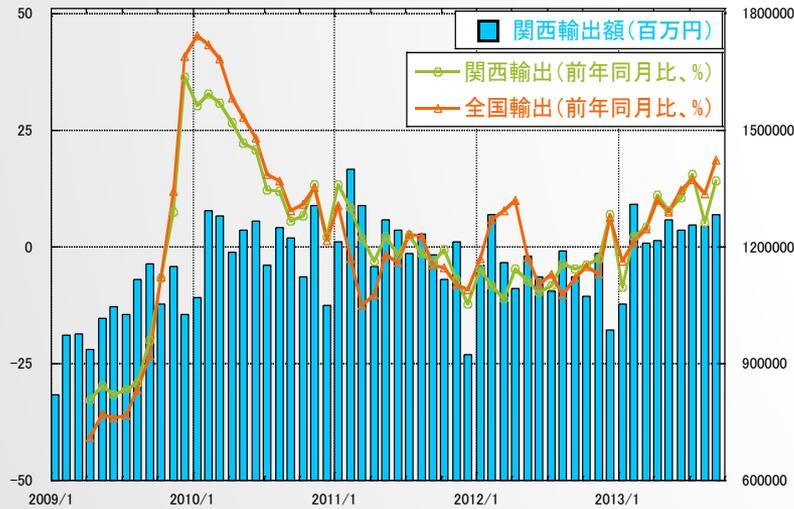


(データ出所: 「鉱工業指数」、経済産業省)

- 全国における10月の鉱工業生産指数(速報値、季節調整済)は98.8となり前月比+0.5%で2カ月連続の上昇となった。7-9月期平均と比較して+1.1%と、10-12月期としては良いスタートとなった。出荷は98.6で同+1.8%と2カ月連続の上昇、在庫は107.8で同-0.5%と3カ月連続の減少。
- 業種別にみると、はん用・生産用・業務用機械、電気機械、プラスチック製品等が上昇。一方、電子部品・デバイス、金属製品、輸送機械等が低下。
- 11月の生産見込み(製造工業: 前月比+0.9%)は前月の生産予測調査結果(同-1.2%)から上方修正された。鉄鋼業、はん用・生産用・業務用機械の回復が大きい。しかし、他業種はおしなべて動きが弱い点に注意が必要である。なお、12月の生産計画は増産(同+2.1%)が見込まれている。仮に、生産予測と同様に鉱工業生産指数が推移すれば、10-12月期は前期比+2.4%と、今年一番の高い伸びとなることが予想される。

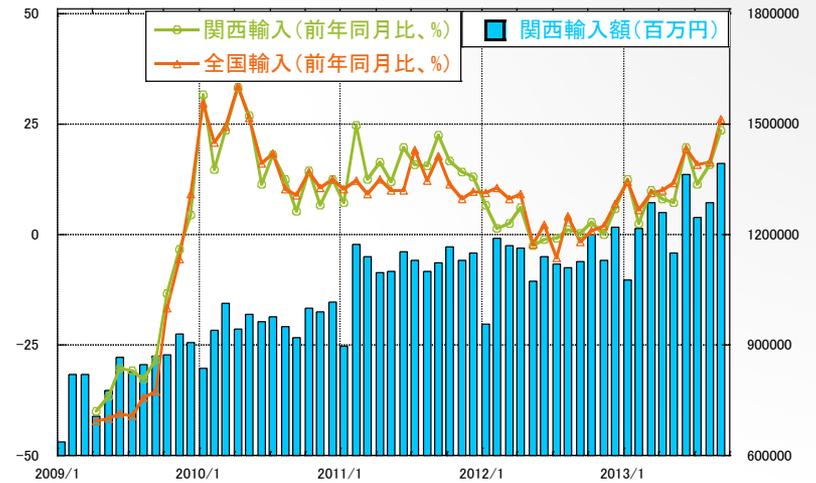
# ～輸出入～

輸出動向（右：輸出額、左：前年同月比）（2013年10月まで）



（データ出所：「大阪税関貿易速報資料：近畿圏」（平成25年9月分（速報値））、大阪税関調査統計課）

輸入動向（右：輸入額、左：前年同月比）（2013年10月まで）



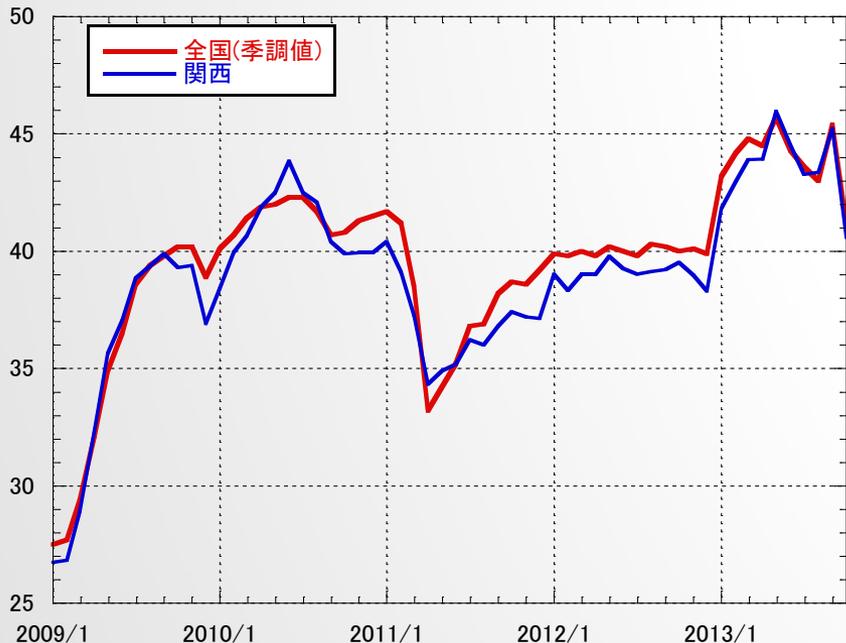
（データ出所：「財務省貿易統計」（平成25年9月分（速報値））、財務省）

- 関西10月の輸出額（速報値）は1兆2,847億円、前年同月比+14.3%と8カ月連続の増加。
- 鉄鋼、原動機、半導体等電子部品を中心に輸出は増加。
- 全国10月の輸出額（速報値）は6兆1,045億円、前年同月比+18.6%と8カ月連続の増加。円安の持続を背景に、輸出は近畿、全国共に引き続き大きく改善してきている。
- 関西の輸出を地域別にみると、アジア（前年同月比+11.1%）、中国（同+13.4%）、米国（同+13.2%）、EU向け（同+24.4%）輸出はいずれも増加を続けている。

- 関西10月の輸入額（速報値）は1兆3,950億円、前年同月比+23.7%と10カ月連続の増加。輸入額は過去最高額を更新。
- 原油及び粗油、天然ガス及び製造ガス、衣類及び同付属品等が大幅に増加しており、いずれも10月における過去の最高輸入額を更新。
- 全国10月の輸入額（速報値）は7兆1,952億円と2008年8月以来の7兆円台となり、前年同月比+26.1%と12カ月連続の増加。
- 結果、全国の純輸出額は-1兆907億円と16カ月連続の赤字と悪化が続く一方、関西の純輸出額はゼロ付近で推移してきている。

# ～消費者センチメント～

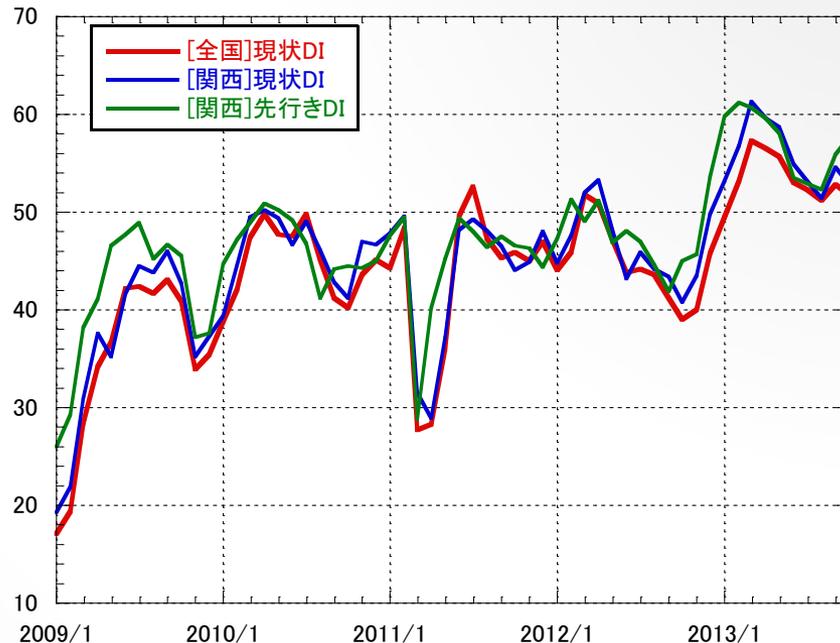
消費者態度指数(原数値、2013年10月まで)



(出所)内閣府「消費動向調査」(平成25年11月12日公表)

- 関西の10月の消費者態度指数(原数値)は前月比4.6ポイント下落の40.6。3カ月ぶりのマイナス。単月の下落幅としてはリーマンショック期の同-2.7ポイント(2008年12月)や、震災直後の同-2.9ポイント(2011年4月)を上回った。
- 同指数の構成項目をみると、「暮らし向き」が同-4.3ポイント、「収入の増え方」が同-3.7ポイントといずれも2カ月ぶりの悪化。「雇用環境」は同-6.0ポイント大幅下落し、「耐久消費財の買い判断」も同-4.6ポイントといずれも3カ月ぶりに下落。
- 全国の10月の消費者態度指数(季節調整値)は41.2となり、同-4.2ポイントと2カ月ぶりに悪化した。

景気ウォッチャー調査(2013年10月まで)

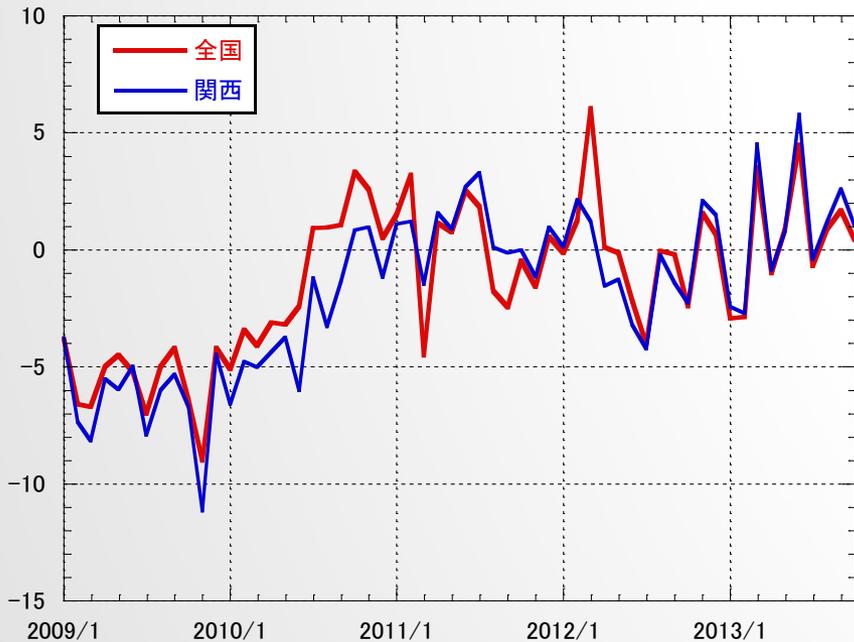


(出所)内閣府「景気ウォッチャー調査」(平成25年11月11日公表)

- 10月の景気ウォッチャー調査をみると、現状判断DIは、台風などの天候要因が影響し、前月比-1.8ポイントの52.8と2カ月ぶりに下落。
- 全国の現状判断DIも同-1.0ポイントの51.8と2カ月ぶりの下落。
- 関西の先行き判断DIは同+1.8ポイントの57.7、全国の先行き判断DIも同+0.3ポイントの54.5といずれも2カ月ぶりに上昇している。
- 関西のセンチメントは高水準からの調整局面が続いている。

# ～個人消費・住宅～

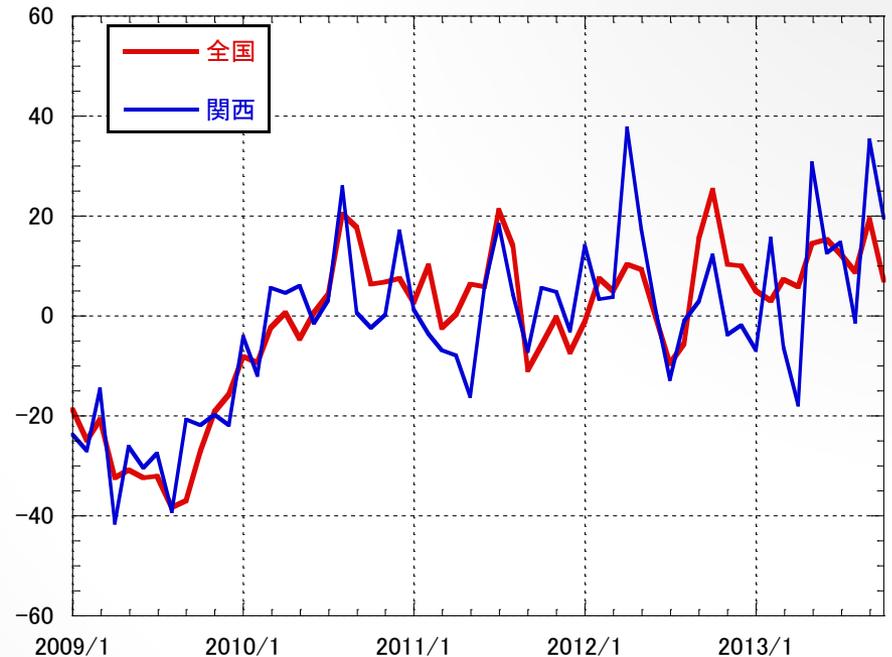
大型小売店販売額(前年同月比:%、2013年10月まで)



(注)福井県を含む。  
(出所)経済産業省「商業動態統計」(平成25年11月28日公表)

- 関西の10月の大型小売店(百貨店+スーパー)の販売額(全店ベース)は、前年同月比+1.0%と3カ月連続のプラス。
- 百貨店も同+1.7%と3カ月連続のプラス。
- なお全国でも、10月の大型小売店販売額(全店ベース)は同+0.4%と3カ月連続のプラスとなっている。

新設住宅着工(前年同月比:%、2013年10月まで)

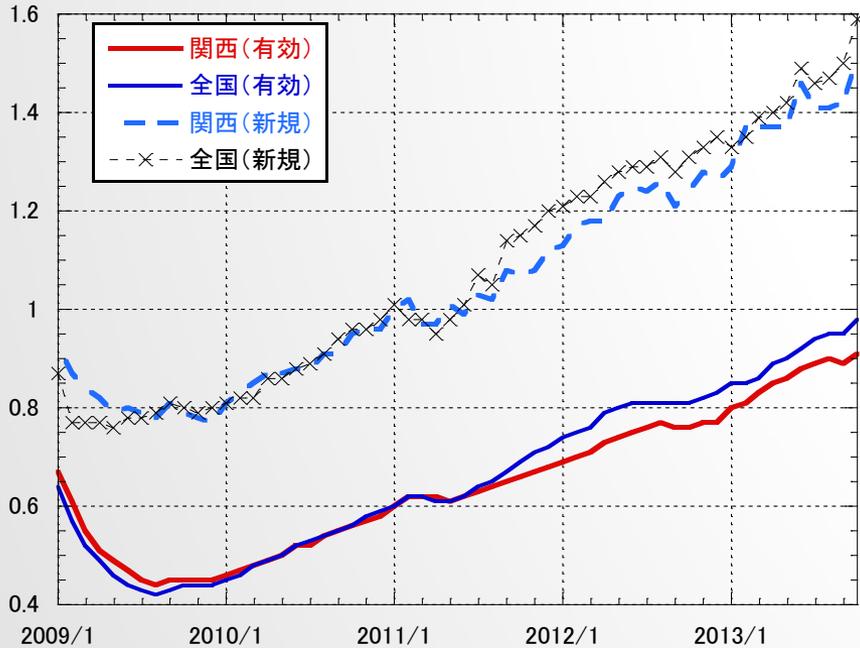


(出所):国土交通省「住宅着工統計」(平成25年11月29日公表)

- 10月の新設住宅着工戸数は14,873戸。前年同月比+19.7%と2カ月連続で上昇した。利用関係別にみると、持家は同+15.0%と9カ月連続の上昇、貸家が同+28.1%と4カ月連続の上昇。分譲も同+12.3%と2カ月連続で上昇した。全国の新設住宅着工戸数は同+7.1%と14カ月連続で上昇。
- 10月のマンション契約率(出所:不動産経済研究所「マンション市場動向」)は77.8%(季節調整値、APIR推計)。前月(83.3%)から減速したものの、好不調の目安とされる70%を20カ月連続で上回っている。
- 消費増税による駆け込み需要・相続税制改正に伴う節税対策から、住宅市場は好調を維持している。

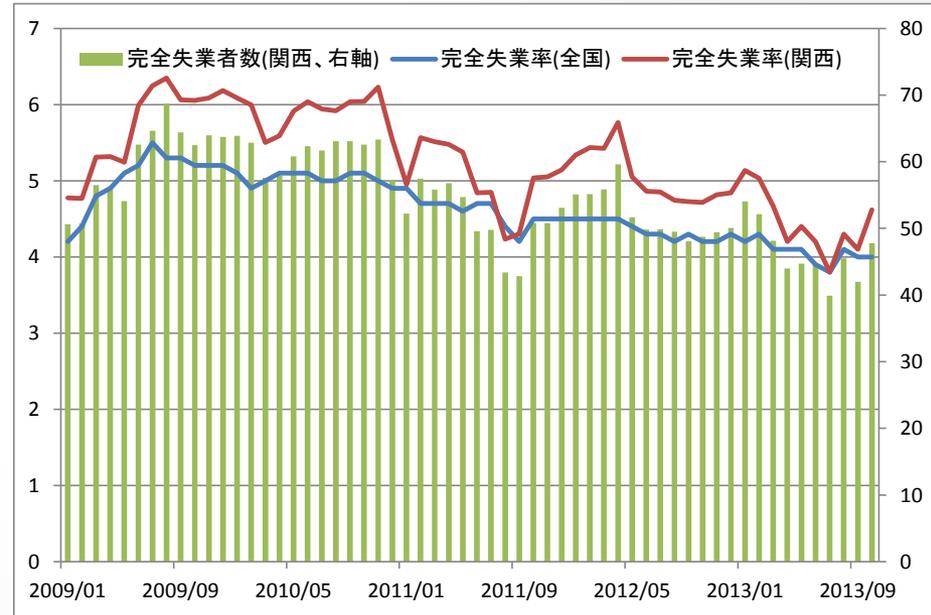
# ～雇用～

有効求人倍率の推移（季節調整値、2013年10月まで）



（出所）厚生労働省(2013年11月29日公表)

完全失業率の推移（季節調整値：％、2013年10月まで）



（出所）総務省「労働調査」(2013年11月29日公表)

## 地域別有効求人倍率2013年10月

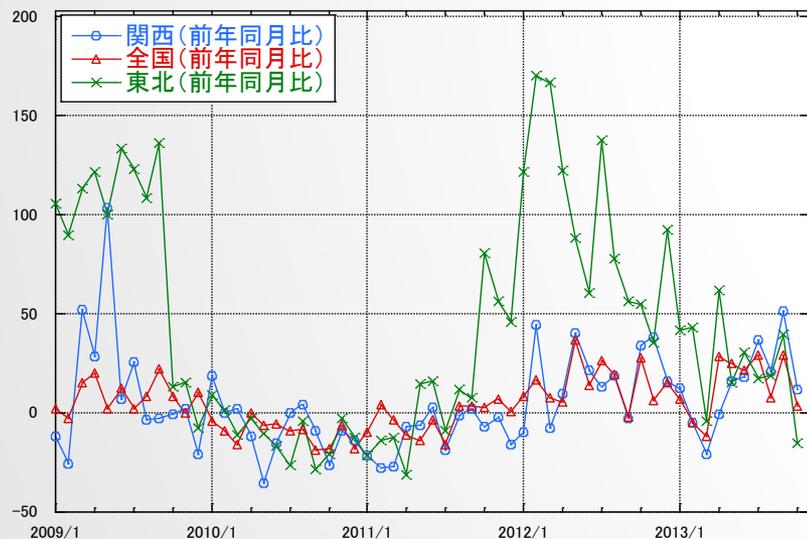
	全国	北海道	東北	南関東	北関東	北陸	東海	近畿	中国	四国	九州
10月	0.98	0.81	1.03	1.03	0.90	1.15	1.18	0.91	1.11	1.03	0.79
9月	0.95	0.78	1.00	0.99	0.88	1.11	1.16	0.89	1.09	1.01	0.78

- 10月の関西の有効求人倍率は0.91倍、前月から0.02ポイント上昇。2008年6月以降の最高値となった。
- 全国は0.98倍で、先月から0.03ポイント上昇。2008年1月以降の最高値となった。
- 10月の新規求人倍率は、関西は1.51倍と前月(1.42倍)より大幅上昇。全国は1.59倍と3カ月連続の改善。

- 10月の関西の完全失業率（季節調整値：APIR推計）は4.7%となり、前月から0.6%ポイントと再び上昇。
- 全国の完全失業率（季節調整値）は4.0%となり、前月か横ばい。
- 関西の完全失業者数(季節調整値：APIR推計)は47.8万人。前月から5.7万人の増加となった。10月は労働力人口が増えており、失業率の上昇は労働市場の悪化を意味するものではない。

# ～公共投資～

公共工事請負額(前年同月比:%、2013年10月まで)

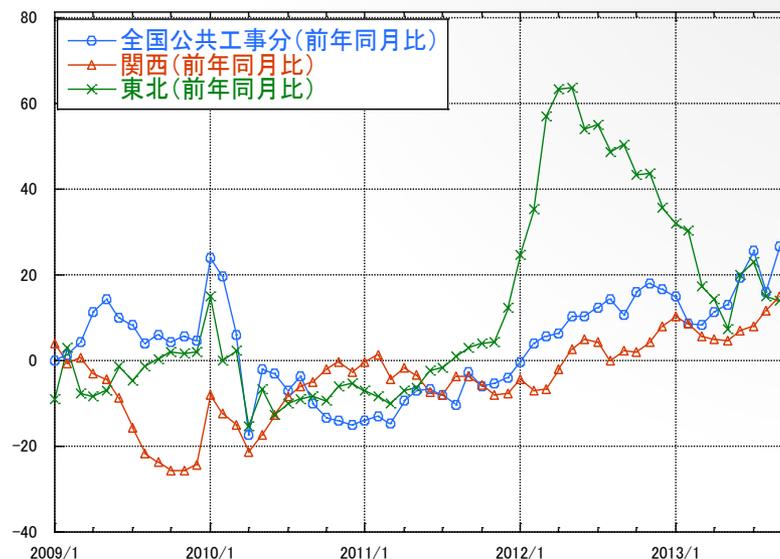


(注) 福井県を含む。

(出所) 「公共工事前払金保証統計」(平成25年10月分)、東日本建設業保証株式会社

- 関西10月の公共工事請負額は1,357億円。前年同月比+12.2%と6カ月連続のプラス。
- 全国は1兆4,205億円と同+3.5%、7カ月連続のプラス。ただし、全国、関西とも伸び率は前月(関西：同+51.4%、全国：同+29.4%)から大幅に減少。
- 東北は2,332億円と同-15.0%と、前月(同+39.6%)までのプラス基調から一転、7カ月ぶりのマイナス。今後の東北の復興政策の進捗が注視される。
- 季節調整値(APIR推計)で見ると、関西は2カ月ぶりのマイナス(関西：-7.9%)、全国は3カ月ぶりのプラス(全国：+2.2%)となった。関西の7-9月期は増加(+7.5%)であったが、10-12月期は前期より減少が予想される。

建設工事(前年同月比:%、2013年9月まで)

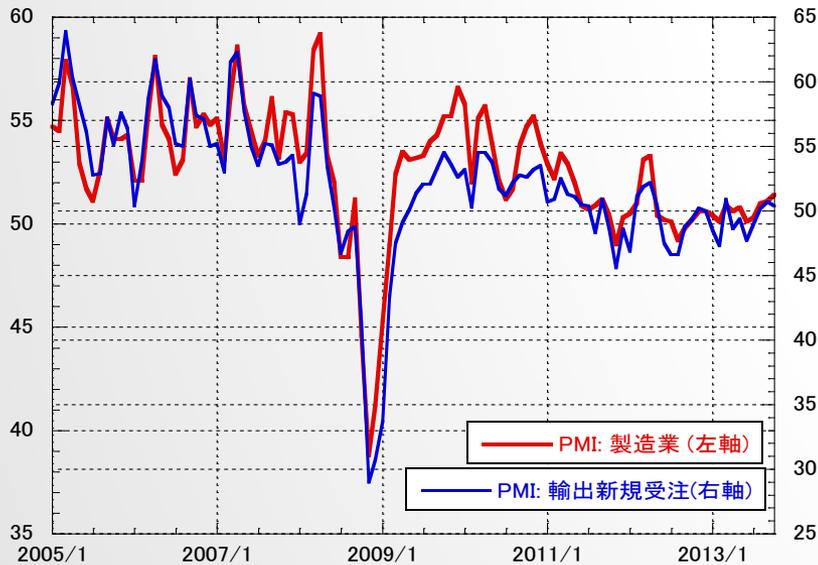


(出所) 国土交通省「建設総統計」(平成25年9月分)

- 関西における9月の建設工事は5,218億円。前年同月比+15.0%と17カ月連続のプラス。
- 東北は5,139億円と同+14.2%となった。26カ月連続のプラス。
- 全国の建設工事(公共)は1兆8,118億円、同+26.7%と20カ月連続のプラス。全国も、建設工事(公共)の伸びは堅調に推移している。

# ～中国経済動向①～

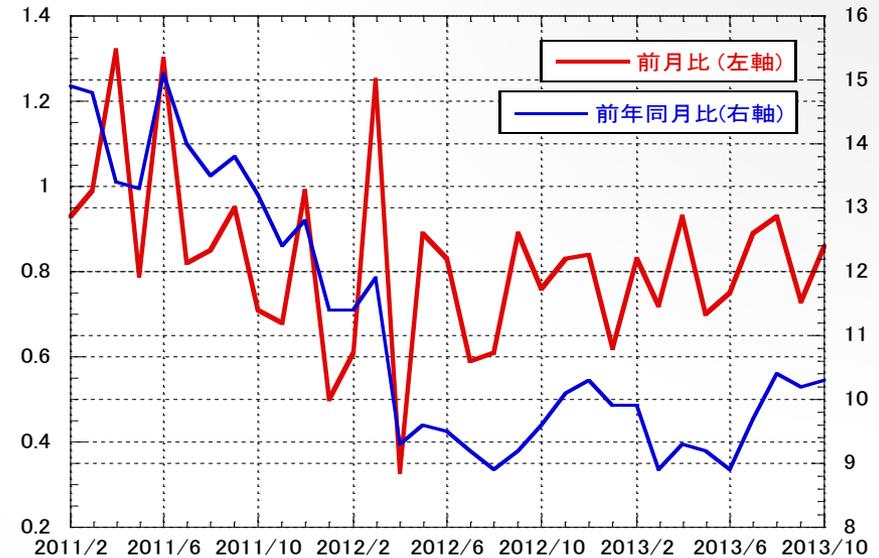
中国購買担当者景況指数(2013年10月まで:%)



出所：中国国家统计局;CEICデータベース

- 10月製造業の購買担当者景況指数(PMI)は51.4となり前月(51.1)より幾分回復。
- うち、生産指数は54.4となり、4カ月連続で前月から上昇したが、新規受注指数は52.5、輸出新規受注指数は50.4となり、いずれも3カ月ぶりに低下した。
- 一方9月の雇用指数は49.2となり、前月(49.1)とほぼ横ばい。
- 生産指数が上昇しているが、新規受注指数および輸出新規受注指数は低下しており、先行きは不透明である。

工業生産動向(2013年10月まで:%)



出所：中国国家统计局;CEICデータベース

- 10月の工業生産は前月比+0.9%となり、9月同+0.7%、8月同+0.9%と伸び悩んでいる。
- 前年同月比で見れば、10月は同+10.3%、9月同+10.2%、8月同+10.4%と10%を幾分上回る生産増となっているが、生産に加速はみられない。
- 産業別に見ると、10月は化学原料・製品製造業(前年同月比+12.5%)、自動車製造業(同+18.2%)、電気機械・機材製造業(同+11.8%)が高い伸びを示す一方、鉄道・船舶・航空航天・その他の運輸設備製造業(同+8.7%)と電力・熱力の生産・供給業(同+6.6%)の伸びは比較的低調であった。

# ～中国経済動向②～

固定資産投資 (2013年10月まで:%) (累計伸び率)



出所：中国国家统计局;CEICデータベース

- 1-10月期における(累積)固定資産投資(名目)は前年同期比+20.1%となり、1-9月期の同+20.2%からほぼ横ばいで推移している。
- 産業別の固定資産投資の伸びを見れば、第1次産業30.6%、第2次産業17.6%、第3次産業21.6%となった。

中国の輸入・輸出(2013年10月まで; 前年同月比)



出所：中国労働市場情報観測センター;CEICデータベース

- 10月の中国の輸出額%(確報値、ドル・ベース)は前年同月比+5.6となり前月(同-0.26%)からプラスに反転した。
- 輸入額(確報値、ドル・ベース)は同+7.6%となり前月(同+7.4%)からやや加速。
- 結果、中国の純輸出(確報値)は、311.1億ドルとなり、前年同月比-3.0%となり、前月(-44.4%)に引き続き依然マイナスであるが、減少幅は縮小した。
- 対日輸入額は同-3.6%となり、前月(同-7.7%)に比してマイナス幅は引き続き縮小傾向にあるが、依然、2011年4月から減少トレンドにある。